

令和5年度 府立西城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◎「部活動の盛んな進学校」として、高いレベルでの「文武両立を実践できる生徒」を育成する。</p> <p>◎「当たり前のことが当たり前ができる」を基本とする生徒指導を通じて、「規範意識の高い生徒」を育成する。</p> <p>◎学校生活のあらゆる場面で、自己の目標に粘り強く向き合う姿勢を養うことで、「忍耐と努力を自らに課せる、自律した生徒」を育成する。</p> <p>◎持続可能な社会に向けて、地域と結びついた安心安全な学校を築き、「自他共に危機管理意識の高い生徒」を育成する。</p>	<p>①この間のコロナ禍における知見を基に、「学びの保障」と「感染防止」を意識して教育活動の充実と進路実現に繋げる取組を継続した。個人面談や進路相談、入試情報の提供に努めるとともに、自学自習できる環境整備を推進した。進学実績としては、関関同立等の私立大学合格者数が増加した。合格した大学に早期に進学を決定する傾向がみられる中、第一志望に向けて最後まで粘り強く学習に取り組む工夫と正確な進学情報の発信など、個々に応じた細やかな進路指導を進めたい。</p> <p>②タブレット導入により授業のICT化が進み、効果的、効率的な授業が推進された一方で家庭学習習慣の確立や模擬試験での記述や多角的な視点の学びについての取組に課題がみられた。また、グローバルネットワーク京都事業は、SDGsを視野に入れ、教科横断的な取組を継続している。今後も実践可能な取組を模索し、準備段階も含め諸活動を有機的に結びつける工夫が課題である。</p> <p>③職員朝礼や情報共有として、また保護者等へのお知らせ連絡や生徒への学習課題の配信など、多岐にわたってグループウェアの活用を促進した。また、各教科において、タブレットの活用や授業での効果的実践手法についての学びを深めるとともに観点別評価についても研鑽を深めた。今後も電子黒板の有効活用やタブレットを活用した授業の工夫改善を図り、ハード、ソフト両面でICT環境の充実・推進を目指す。</p> <p>④新制服の導入や校則の見直し、新教育課程の実施など、新たな西城陽高校の魅力を積極的に発信し地道な広報活動を継続した結果、前期、中期選抜ともに志願倍率は近年と比べ大きく増加した。2月中に高校受験を終えたいと考えている受験生が多い中、中学3年生の減少や受験制度に帰すことなく、広報活動の工夫や地道な中学校訪問によって、引き続き本校の魅力の発信に努め、安定した志願者の確保に繋げたい。</p> <p>⑤生徒の登下校時の安全確保のための携帯電話については、概ね節度のある使用ができている。しかしながら僅かではあるが歩きスマホや授業中の着信等指導が必要なケースがあり、タブレット端末の使用等情報リテラシーの醸成に努めた。また、自転車の交通事故件数や通学路での苦情が数件あることから、引き続きルールやマナーを含めた安全指導を継続する必要がある。下校時に暗くなる正門付近に電灯を整備し、自転車の電動空気入れ機や2階校舎の窓枠に手摺りの設置など安全・安心な学校環境の整備を進めた。引き続き、日頃から危険箇所の点検・改善に努め、生徒の危機管理意識を育む取組を進めたい。</p> <p>⑥校内外の安全や環境美化については、本校が目指す安全で美しく爽やかな学習環境を維持することができてはいるが、月例大掃除の充実や校内の安全点検、ゴミの分別指導についてさらに取組を推進したい。</p> <p>⑦部活動はコロナ禍による制限が少し緩和され、各部で実績を残す活躍がみられた。硬式野球部が京都府春季大会で初優勝し近畿大会に出場した。また、陸上競技、男子ソフトテニス全国インターハイに出場、水泳部の近畿大会出場をはじめ男子バレーボール部も創部初の府下大会3位となり近畿大会に駒を進めた。文化系においても、合唱部が関西合唱コンクールで金賞を受賞した。今後も部活動全体の活性化を図っていく一方、活動が過熱しないように、休養日を週一回以上あるいは競技・種目特性に応じて定期的に設定して、学習と部活動を両立できる時間の確保を図り、計画的で効率的・効果的な活動としていく。</p> <p>⑧教職員の働き方改革については、月間出退勤時刻記録を個々に提示し意識改革を促している。職場の雰囲気や和やかで快適な環境になるよう、ハラスメント防止やコンプライアンス遵守の研修、職員間での良好なコミュニケーション形成、定期的な面談の実施など継続した取組を充実していく。また、個人の健康管理の一環として、ストレスチェックの意義を広く教職員に伝えたが、昨年度から少し回答率が低下した。</p>	<p>①タブレット端末を有効活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」をより充実させ、ICT教育の環境整備に努める。新学習指導要領に準拠した「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の工夫改善を全教職員で取り組むとともに、観点別評価の適切な運用に注力する。</p> <p>②分野別ガイダンスや個別面談を通して早期から具体的な進路目標を設定し、学年に応じた計画的で充実した進路指導に取り組む。選択7限授業の効果的で充実した取組を推進し、個々の進路実現に繋げる。</p> <p>③部活動ごとの目標や競技、種目特性を考慮した休養日を設定するなど、適切な部活動の実施を通して生徒の自己管理能力を育成しながら、高いレベルでの「学習と部活動の両立」を支援する。</p> <p>④伝統と校風、本校が目指す教育や今後の姿について、学校説明会等において広く正確に情報提供し、中学生が「目指したい」保護者が「通わせたい」と思える魅力ある学校づくりを行う。</p> <p>⑤交通安全や生徒個々の危機管理意識を育み、防災や減災をはじめとして、地域と連携して安全・安心な学校を築くとともに、環境美化に積極的に取り組み、持続可能な社会の担い手を育成する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			具体的方策	重点目標	評価領域	
組織・運営	学習指導要領に対応した教育課程の実施	◆基盤となる情報活用能力の育成を進め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて教育活動の改善を図る。地域との連携及び協働を図りながら教育課程を実施する。総合的な探究の時間においては課題発見・解決等の能力を養うために内容の充実を図る。				
	学習と部活動の両立に向けた取組の推進	◆部活動ごとの活動目標と活動時間のバランスに留意し、学習と部活動の両立を目指した取組を学校全体として進める。				
	魅力ある学校づくりの推進	◆学校生活評価アンケート等を通して学校の課題や生徒の実態を把握し、学校が安心して楽しく通える魅力ある環境となるよう改善を図る。生徒による地域行事への積極的参加、学校行事の地域への公開等により本校に対する地域の理解と信頼を高める。				
学習指導	学習習慣の確立と主体的な学習態度の育成	◆各教科の連携、家庭との連携、外部人材との協働など生徒の学習意欲を高める取組を組織的に推進する。				
		◆「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。研究授業を計画的に行い意見交流を通じて課題を共有し組織的に改善を図る。				
		◆「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて授業におけるICT機器の利活用を進める。				
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	◆基本的な生活習慣の確立に向けて、時間を守る、身だしなみを整える、笑顔でさわやかな挨拶ができるといったことを大切に指導を行う。				
	規範意識の確立と交通安全指導の充実	◆校内における学習環境を確立して、生徒が主体的に校則やマナーを守り規範意識を高められるように働きかける。命の尊さを伝え、社会規範・交通ルールの遵守について指導を行う。				
	道徳心の育成と人権意識の確立	◆教育活動全般を通じて周囲への心遣い、思いやりの心、他者を尊重する精神を培う。物事の捉え方や考え方は人それぞれであり、多様であることを理解できるよう働きかける。				

進路指導	キャリア発達の支援と キャリア形成のための指導の充実	◆自らの進路目標を持たせ、働くことの意義、望ましい職業観や勤労観を身に付けさせる「キャリア教育」を充実させ、進路を主体的に切り開く能力や態度を育成する。				
	在り方や生き方を考え、 進路選択の意欲を高める指導の充実	◆人間としての在り方や生き方に係る指導を基盤にして、生徒が主体的に学習できる環境を提供し、最後まで取り組む学習態度を育成する。また、学年部と連携し、個々の生徒の希望に応じたきめ細かな進路選択に係る指導を行う。				
広報活動	本校の魅力についての 積極的な発信	◆ホームページを活用して日々の教育活動について情報発信を行うとともに学校公開・説明会における内容・資料を充実させ、本校の特色や魅力、「学びのスタイル」を中学生・保護者に伝える。				
健康・環境美化教育	健康・安全上の自己管理の啓発	◆食や性についての正しい知識を身に付けさせ、適切な意思決定・行動選択ができるようにするなど生徒自身が健康の維持増進や安全について自己管理できるよう促す。				
	特別な支援を必要とする 生徒への組織的対応の 推進	◆日常の生徒観察を重視し、「気になる生徒」の情報を学年部・保健部及び教科担当者と共有し、教育相談会議との連携を図りつつ、生徒の変化に対応して早期に支援する。				
	校内美化意識の確立と 校内美化の維持	◆日々の清掃活動や月例大掃除とともに、ゴミの処理の指導を通じて、美化意識・公共心を養い、良好な学習環境を自分たちで作出す意識を育む。				
図書館利用	読書活動の推進	◆ICT機器の利活用を含め、授業や特別活動を通じて、読書活動を推進する。蔵書のデータベース化・公共図書館との連携を進め、生徒の図書館利用促進、図書委員会活動の活性化を図る。				
教育環境の整備	学校施設・設備等の充実	◆ICTを活用した教育活動の推進に向けて校内環境の整備・改善を進める。校内の安全点検を定期的実施して安全・安心な校内環境を構築する。				
	就・修学支援の充実	◆学校ホームページ、グループウェアも活用し、各種支援制度について、生徒・保護者等に対する案内を行う。授業料や諸費等の徴収事務および各種奨学金事務を円滑に実施する。				